

## 常設展示資料の調査

**資料** 料館は現在改修工事準備のため、資料の整理及び移動を行っています。2階常設展示は長期間、資料の整理を実施していませんでしたが、今回の改修工事を機に常設展示の資料調査を実施しています。

資料は伊藤左千夫関連資料が多く、紙類（手紙・短冊等）が中心ですが、茶道具（陶器・磁器類）も沢山あります。また、資料の移動には細心の注意を払いながら包装し、保存しています。

そんな伊藤左千夫関係資料の中に1点異質な趣のある青銅製の五鈴鏡があります。

「五鈴鏡」は直径5・6cmの円形を呈し、1・2cm程の鈴を五つ着けた鏡で、重さは110g。鈴の中には小石が入っており振るとカラカラと音がします。鏡表面に「明治四十二年己酉神宮会徴古館開館式記念」と記した銘文が見られます。

徴古館は「伊勢神宮の歴史と文化の博物館」施設を言います。

**調査** したところ、五鈴鏡は伊勢神宮の徴古館開館と関係のある資料であることが分かり、問い合わせた結果、五鈴鏡は伊勢神宮の徴古館建設に当たり多額の寄付をした方々に配った記念品であり、文鎮として使用するものと分かりました。

全国から寄付を募ったことから、全国に発見例があるそうです。伊藤家に伝承されたこの五鈴鏡は誰の寄付によって頂いたものなのか推理はできませんが、明治42年の左千夫の日記等では

「伊勢神宮徴古館」所蔵

参考資料 神苑會史料

「伊勢神宮徴古館」所蔵

寄付したとの記載はありませんので、伊藤家の長兄廣太郎氏が寄付したと考えるのが妥当かと思いません。

この五鈴鏡は全国の寄付した人に配布されていることから皆さんの蔵の中にもあるかもしれませんね。ひとつの資料から色々なことが分かってきます。今後、資料の整理や調査を実施し、資料の持つ歴史的意味を探っていききたいと思います。



五鈴鏡